

『対人援助と心のケアに活かす心理学』WEBサポート

●章末の理解確認用の CHECK 問題と解答一覧●

**CHECK**

- 1 物理的には同じ刺激に対して、同じであると知らされていても、異なるように見えることを（ ）と呼ぶ。事故などによる四肢の切断によって、失った手足に感じるはずのない感覚を感じることを（ ）と呼ぶ。
- 2 時間的観点から、記憶は、感覚記憶、短期記憶、（ ）に分けることができる。記憶障害で、ある出来事以降の記憶に障害が生じることを（ ）と呼ぶ。
- 3 注意は、（ ）、分割的注意、選択的注意に分けることができる。事故や病気により右頭頂葉に損傷を受けることで、視野の半分の対象に注意が向かなくなる症状を（ ）と呼ぶ。

[解答記入欄]

- 1 ( \_\_\_\_\_ ) ( \_\_\_\_\_ )
- 2 ( \_\_\_\_\_ ) ( \_\_\_\_\_ )
- 3 ( \_\_\_\_\_ ) ( \_\_\_\_\_ )

--	--

**CHECK**

- 1 私たちの行動は、生得的行動と（ ）に分けることができる。1つの刺激を何度も繰り返し与えることで行動が減ることを馴化と呼び、強くなることを（ ）と呼ぶ。
- 2 中性刺激と無条件刺激を対呈示することで、中性刺激が無条件反応を引き起こす条件刺激となることを（ ）と呼ぶ。私たちの恐怖感も条件づけられる可能性があり、その行動を取り去る心理的介入法として（ ）がある。
- 3 オペラント条件づけでは、先行事象、行動、結果の（ ）から自発的な行動を理解する。出現することで行動が増えるような結果の刺激を（ ）と呼び、減るような結果の刺激を罰と呼ぶ。

[解答記入欄]

- 1 ( \_\_\_\_\_ ) ( \_\_\_\_\_ )
- 2 ( \_\_\_\_\_ ) ( \_\_\_\_\_ )
- 3 ( \_\_\_\_\_ ) ( \_\_\_\_\_ )

--	--

第4章 心の動きとしての感情

**CHECK**

- 1 感情の発動には主に（ ）が関わり、感情の制御には主に（ ）が関わっています。この機能が不調になると、（ ）や（ ）のリスクが高くなります。
- 2 主な感情制御方略には、（ ）、（ ）、（ ）などがあります。

[解答記入欄]

- 1 ( \_\_\_\_\_ ) ( \_\_\_\_\_ ) ( \_\_\_\_\_ ) ( \_\_\_\_\_ )
- 2 ( \_\_\_\_\_ ) ( \_\_\_\_\_ ) ( \_\_\_\_\_ )

--	--

## 第5章 心の輪郭としてのパーソナリティ

### CHECK

- 1 クレッチマーやユングのようにパーソナリティをいくつかの典型的なタイプに分ける方法を（ ）といいます。
- 2 特性論の考え方に基づいてパーソナリティを5因子で理解しようとする理論を（ ）といいます。

[解答記入欄]

- 1 ( \_\_\_\_\_ ) ( \_\_\_\_\_ )
- 2 ( \_\_\_\_\_ ) ( \_\_\_\_\_ )

--	--

**CHECK**

- 1 ピアジェの認知的発達理論では、感覚運動期、前操作期、(        ), 形式的操作期の、4つの発達段階があることが指摘されている。
- 2 子どもが、主に親などの重要な他者に対して感じる強い絆のことを(        )という。
- 3 社会的なコミュニケーションなどへのつまずきや、物や活動へのこだわりなどの特徴がある発達障害を(        )という。

[解答記入欄]

- 1 ( \_\_\_\_\_ )
- 2 ( \_\_\_\_\_ )
- 3 ( \_\_\_\_\_ )

--	--

**CHECK**

- 1 「期待理論」では、「モチベーション＝努力×（ ）×報酬の魅力」という式が提唱されている。
- 2 自分で自分の行動を振り返り、内省を促す手続きを（ ）という。
- 3 課題などにチャレンジするときの、実際にできそうかどうかという確信の程度を（ ）という。

[解答記入欄]

- 1 ( \_\_\_\_\_ )
- 2 ( \_\_\_\_\_ )
- 3 ( \_\_\_\_\_ )

--	--

**CHECK**

- ❶ 効果的なコミュニケーションのためには、言語的な反応だけでなく、表情や態度など（ ）的な反応も重要である。
- ❷ 相手の気持ちも尊重しながら、客観的な事実や状況を伝えたり、自分の気持ちを冷静に説明するようなコミュニケーションを（ ）という。
- ❸ 援助場面で、相談者とのコミュニケーションは重要であるが、過度な（ ）は、価値の押しつけになったり、相手にプレッシャーを与えるため、控えたほうがよい。

[解答記入欄]

- 1 ( \_\_\_\_\_ )
- 2 ( \_\_\_\_\_ )
- 3 ( \_\_\_\_\_ )

--	--



**CHECK**

- 1 人はたいてい、複数の集団に所属し、それぞれの集団において役割をもっている。複数の集団でそれぞれ期待される役割の間で、調整がうまくいかないことを（ ）という。
- 2 ある人を支える、周囲からの支援は（ ）という。このうち、つらい気持ちを和らげるような支援は（ ）、作業を手助けすることや物質的な援助を行うことは（ ）と呼ばれている。
- 3 予防は、病気にならないための働きかけや環境調整を行う（ ）予防、病気を早く発見し対応する（ ）予防、そして病気になった後の社会復帰を支援する（ ）予防に分けられる。

[解答記入欄]

1 ( \_\_\_\_\_ )

2 ( \_\_\_\_\_ ) ( \_\_\_\_\_ ) ( \_\_\_\_\_ )

3 ( \_\_\_\_\_ ) ( \_\_\_\_\_ ) ( \_\_\_\_\_ )

--	--

**CHECK**

- 1 ストレッサーに直面し、ストレス反応が改善されずに、慢性化した状態になると、うつ病や不安障害などの（ ）や心筋梗塞、気管支喘息、過敏性腸症候群などの（ ）のリスクが高まり、不登校や欠勤の増加といった（ ）にまで影響をもたらす可能性がある。
- 2 ストレスマネジメントは、（ ）モデルに基づいたアプローチの総称であり、ストレッサーのみならず、（ ）と（ ）といった個人内変数に着目し、個人のストレス対処能力を向上させる。

[解答記入欄]

1 ( \_\_\_\_\_ ) ( \_\_\_\_\_ ) ( \_\_\_\_\_ )

2 ( \_\_\_\_\_ ) ( \_\_\_\_\_ ) ( \_\_\_\_\_ )

--	--

**CHECK**

- 1 ( )とは、援助の対象となる人の相談事だけでなく、パーソナリティ特性や行動パターンなど幅広い情報を収集し、援助の方針を立てる過程である。
- 2 援助の手立てを考えるために、問題となる行動の前後に注目し、行動の機能を分析することを( )という。
- 3 うつ病の主な症状は、抑うつ気分の持続と( )であり、これらの症状が( )週間以上続くとうつ病が疑われる。

[解答記入欄]

1 ( \_\_\_\_\_ )

2 ( \_\_\_\_\_ )

3 ( \_\_\_\_\_ ) ( \_\_\_\_\_ )

--	--

**CHECK**

- 1 「こころ」の不調を理解するということは、不快な感情が維持され、悪化していく（ ）を見極めていく必要がある。
- 2 カウンセリングを支える臨床心理学の主要な理論としては、行動理論、認知理論、（ ）、精神分析理論、人間性心理学理論などがある。
- 3 グループ・カウンセリングには、個人療法にはない①サポート機能、②（ ）、③強化機能（各メンバーの取り組みを他のメンバーが励まし、強化する）などがある。

[解答記入欄]

- 1 ( \_\_\_\_\_ )
- 2 ( \_\_\_\_\_ )
- 3 ( \_\_\_\_\_ )

--	--

**CHECK**

- 1 情報処理のスピードや記憶の容量などを特徴とする知能は（ ）と呼ばれ、加齢によって低下しやすい。一方、経験や教育などによって蓄積された知識や問題解決能力を特徴とする知能は（ ）と呼ばれ、加齢によっても低下しづらい。
- 2 高齢期に体験しやすいライフイベントは、病気、死別、引退などの（ ）が多い。
- 3 （ ）とは、高齢者が、それまでの活動を縮小した上で、活動を縮小せざるをえない自分や自分の衰えを受容することで幸福感を維持すると考える理論である。

[解答記入欄]

- 1 ( \_\_\_\_\_ ) ( \_\_\_\_\_ )
- 2 ( \_\_\_\_\_ )
- 3 ( \_\_\_\_\_ )

--	--

**CHECK**

- ❶ 病気や障害の受容過程について、フィンクは 4 段階による危機から適応までの過程を示した（ ）モデルを提唱しました。
- ❷ 緩和ケアにおける患者家族の全人的苦痛には、（ ）的苦痛、（ ）的苦痛、（ ）的苦痛、（ ）な苦痛があります。
- ❸ 大切な人との死別によって生じる、悲しみや怒り、身体的不調などさまざまな反応を（ ）といいます。

[解答記入欄]

1 ( \_\_\_\_\_ )

2 ( \_\_\_\_\_ ) ( \_\_\_\_\_ ) ( \_\_\_\_\_ ) ( \_\_\_\_\_ )

3 ( \_\_\_\_\_ )

--	--

●CHECK 解答一覧●

第1章 人間理解と対人援助の基礎としての心理学	CHECK 問題なし
第2章 心の源としての感覚・知覚・認知	1 錯視／幻肢 2 長期記憶／順向性健忘 3 持続的注意／半側空間無視
第3章 心の表れとしての行動	1 習得的行動／鋭敏化 2 古典的条件づけ（またはパヴロフ型条件づけ）／暴露法 3 3項随伴性／正の強化子
第4章 心の動きとしての感情	1 扁桃体／前頭前野／精神疾患／身体疾患 2 抑制／ディストラクション／認知的再評価
第5章 心の輪郭としてのパーソナリティ	1 類型論 2 ビッグ・ファイブ理論
第6章 発達・成長する心	1 具体的操作期 2 愛着（アタッチメント） 3 自閉スペクトラム症
第7章 活動の原動力としての心	1 成果 2 セルフ・フィードバック 3 自己効力感
第8章 他者と交わる心	1 非言語（ノンバーバル） 2 アサーション 3 自己開示
第9章 社会のなかの心	1 役割間葛藤 2 ソーシャル・サポート／情緒的サポート／道具的サポート 3 一次／二次／三次
第10章 心の健康	1 身体疾患／精神疾患／社会生活 2 心理的ストレス／認知的評価／対処行動（コーピング）
第11章 臨床における心の捉え方	1 心理アセスメント（心理査定） 2 機能分析 3 興味または喜びの喪失／2
第12章 悩み回復する心	1 背景要因の悪循環 2 認知行動理論 3 教育機能
第13章 衰え・老いと心	1 流動性知能／結晶性知能 2 喪失体験 3 老年的超越理論
第14章 病気・死に向き合う心	1 危機 2 身体／精神／社会／スピリチュアル 3 悲嘆反応
第15章 援助する心	CHECK 問題なし